

先生との大事なご縁	坂隆史
春の永代経が終わったその夜、1本の電話	
がありました。私の敬愛する先生がお亡くな	
りになったという知らせでした。	
実はその日の法話でその先生のお話を檀家	
の皆さんにしていたのです。「私たちの一生	
はご縁によって成り立っている。」という演題	
で私の今までのご縁についてお話しする中で	
中学校時代にお世話になった先生の話になっ	
たのです。先生には私たちのボランティア活	
動の顧問になっていただき、いろいろ助けて	
いただきました。卒業後も、毎年お正月には	
先生のお家へお邪魔していただきました。それは、	
それぞれが家庭を持つまで続きました。また、	
私は同じ市内に教師として勤めていましたの	
で時々顔を合わせ、言葉を交わしていただきました。	
先生が退職されてからは、講演で私のお寺	
へ来ていただき、東日本大震災から見えた人	
間のエゴについてお話しいただきました。	
また、先生は地域の絶滅危惧種「ハリヨ」	

のこともをもっと子どもたちに知ってほしいと
いう願いを持たれました。「ハリヨ」の紙芝
居を作って小学校で話をするために、私に紙
芝居の絵を描いてほしいとお話がありました。
とてもありがたいお話で、お手伝いをさせて
いただきました。昨年は、「ハリヨ」の紙芝
居が傷んで色あせてきたので、その修理を頼
まれ、修理を終えてお渡ししました。このよう
に先生とのご縁を皆さんにお話ししたのです。
そしてその夜に、先生が亡くなられたとの一
報が入ったのです。先生とのより深いご縁を
感ぜずにいられませんでした。
しかし、その電話は最後にこう伝えたので
す。「家族葬やで、葬儀に出れんよ。」
先生とのご縁が大きな音を立てて「ブチン」
と切れた瞬間でした。
近頃は、家族葬が多くなりお別れに行きた
くても行けないもどかしさを感じずにはいら
れません。
先生が教えて下さったことをもう一度頂き

直 し た い と 思 い ま す 。